

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ		CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス		日産のサステナビリティ

ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス



RENAULT NISSAN MITSUBISHI

ルノー・日産自動車・三菱自動車は、世界の自動車業界をリードするアライアンスのひとつです。アライアンスは創造的かつ協力的なビジネスモデルを通じて、メンバー各社の強みを生かし、互いの戦略を補完し合うことで、競争力と収益性を高めることを目指しています。

2020年、日産は「Nissan NEXT」で改革に歩み始め、その後「Nissan Ambition 2030」では将来の姿を描き、アライアンスを重要な柱のひとつに据えて事業の方向性を示してきました。しかし、日産を取り巻く環境は大きく変化しています。気候変動、地政学的シナリオ、原材料の高騰、市場の細分化など、日産は新しい現実にも機敏に対応することが急務となりました。

それにより、アライアンスにおいても次のレベルの改革に進む必要がありました。

2023年2月、ロンドンで開催した記者会見において、日産・ルノー・三菱自動車の首脳は成長市場、電動化および次世代技術における協業を拡大し、「Nissan Ambition 2030」実現を補完する取り組みとして3つの領域を発表しました。

最初の領域は、ラテンアメリカ・インドおよび欧州での高い価値を創造するプロジェクトです。これらにより、メンバー各社はイノベーションを迅速に進めてコスト効率を改善しながら付加価値を高めることができます。

2月下旬、その新たな成果として日産とルノーはインドでの新たな長期ビジョンを発表しました。このビジョンのもと、約6億米ドルの初期投資、生産と研究・開発活動の拡大、電気自動車(EV)の導入およびカーボンニュートラルに向けたクルマづくりへの移行を進めます。これらにより、チェンナイにあるルノー日産テクノロジー&ビジネスセンターにおいて最大2,000人の新規雇用が創出されます。

第2の領域では、各社の新しい取り組みにパートナーが参加可能となる、戦略的な機敏性の向上を目指します。



日産は電動化されたモビリティの普及に向けた取り組みを加速していますが、電動化へのスピードやお客さまの受け入れ度合は市場によって異なります。そのため日産は、ルノーグループのEVおよびソフトウェア子会社となるアンペアに最大15%出資する意向を発表し、欧州における電動化戦略を推進します。アンペアは、日産が欧州において新しいビジネスを創出し、新しいコラボレーションや新たな価値を生むプロジェクトへの参画を可能にします。

第3の領域は、リバランスされた株式相互保有と強化されたアライアンスのガバナンスです。変革の新たな局面においてモビリティの未来に関する共通で意欲的な取り組みを加速させるためには、メンバー各社の信頼を深めておのの強みを発揮できる効率的な組織と強化されたガバナンスが必要です。

このように日産は今後もルノー、三菱自動車との強固な基盤と変革したアライアンスのパートナーシップを活用して、競争力を高め、持続可能な収益性を強化し、社会・環境への責任をさらに高いレベルで果たしながら、企業戦略の実現に向けた取り組みを力強く推進してまいります。